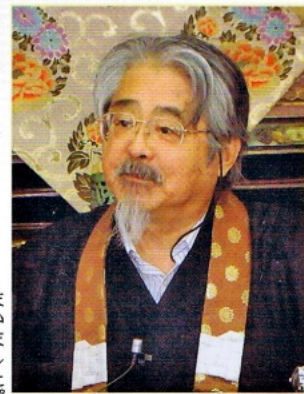


赤羽別院報 第40号
 発行所 大谷派 赤羽別院 親宣寺
 〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷14
 Tel・Fax (0563) 72-2308
 Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

講師プロフィール
中村 薫 (なかむら かおる)
 昭和23 (1948) 年 愛知県西尾市生まれ
 大谷大学文学部仏教学科(華嚴学)卒業
 博士課程仏教学専攻修了
 現 同朋大学特任教授
 一宮市 養蓮寺住職
 著書「中国華嚴浄土思想の研究」
 「響き合ういのち」「正信偈62講」
 他多数

金子みすゞとお念仏



「大漁」
 朝焼小焼だ
 大漁だ
 大抵鯉の
 大漁だ

「私」
 私はこの詩に出会ったとき
 お釈迦さまの言葉と同じだと
 思いました。「生き物は互いに
 食み合う」ことを、お釈迦
 さまは哀れと感じました。「弱
 肉強食」が当りまえの今日、
 「いただきます」は、自分の口
 に入れたものは、元のちが
 あつたものであるという事実
 を確かめることなのです。

「お仏壇」
 お背戸でもいだけども、
 町のみやげの花菓子も、
 佛さまのをあげなけりや、
 私たちにはとれないの。
 昔は、みんな頂き物はまず
 仏さまにお供えしました。
 ここでは、天と地の自然の
 恵みによる頂き物に対する喜
 びと感謝の気持ちが示されてい
 ます。

「安芸門徒」
 わずか六年の間に五百十二
 編の詩を残したみすゞは、
 明治36 (一九〇三年)、山口県
 の生まれで、浄土真宗(本願
 寺派)の門徒、いわゆる安芸
 門徒でした。
 小さい頃、おばあちゃんが
 二階で仲間の人と「歎異抄」の
 輪読をしていたところへ、お
 茶を運んだらしてお手伝いを
 していたそうです。そういう
 真宗門徒の念仏の教えに、ど
 つぶり浸かって育ってきたの
 がみすゞです。

「秋夜」
 除夜の鐘 (初鐘) じよかのねはつがね
 12月31日(水) 午後11時30分より
 先着順にこなたでも鐘撞きできます。
 甘酒・菓子等の接待があります。

修 正 会 しゃしゅうえ
 1月1日(木) 午前7時
 法話 輪番 三浦 貞教師

「何一つ選べない」
 私たちは、この世に誕生するの
 のに何一つ選べません。その
 境遇の中にいのちをいただ
 いているのです。お父さん・
 お母さんも選べない。両親の
 都合で育ち方まで変わる可
 性があります。一つも自分の
 都合通りにはならないのです。
 金子みすゞは、3歳のとき
 戦争で父を亡くしたため、母
 は後妻に嫁ぎ、祖母に預けら
 れて両親のいない生活を余儀
 なくされました。

「大漁」
 朝焼小焼だ
 大漁だ
 大抵鯉の
 大漁だ

「私」
 私はこの詩に出会ったとき
 お釈迦さまの言葉と同じだと
 思いました。「生き物は互いに
 食み合う」ことを、お釈迦
 さまは哀れと感じました。「弱
 肉強食」が当りまえの今日、
 「いただきます」は、自分の口
 に入れたものは、元のちが
 あつたものであるという事実
 を確かめることなのです。

「お仏壇」
 お背戸でもいだけども、
 町のみやげの花菓子も、
 佛さまのをあげなけりや、
 私たちにはとれないの。
 昔は、みんな頂き物はまず
 仏さまにお供えしました。
 ここでは、天と地の自然の
 恵みによる頂き物に対する喜
 びと感謝の気持ちが示されてい
 ます。

「安芸門徒」
 わずか六年の間に五百十二
 編の詩を残したみすゞは、
 明治36 (一九〇三年)、山口県
 の生まれで、浄土真宗(本願
 寺派)の門徒、いわゆる安芸
 門徒でした。
 小さい頃、おばあちゃんが
 二階で仲間の人と「歎異抄」の
 輪読をしていたところへ、お
 茶を運んだらしてお手伝いを
 していたそうです。そういう
 真宗門徒の念仏の教えに、ど
 つぶり浸かって育ってきたの
 がみすゞです。

「秋夜」
 除夜の鐘 (初鐘) じよかのねはつがね
 12月31日(水) 午後11時30分より
 先着順にこなたでも鐘撞きできます。
 甘酒・菓子等の接待があります。

修 正 会 しゃしゅうえ
 1月1日(木) 午前7時
 法話 輪番 三浦 貞教師

別院行事のご案内

9月22日(月)	午後1時	秋夜彼岸会	しゅうきひがんえ
9月23日(火)	午後1時	法話	慶徳寺 法輪 篤師
9月24日(水)	午後1時	法話	第11組 淨徳寺 太藤 順世師
9月24日(水)	午後1時	法話	六ツ美組 本光寺 稲前 恵文師
9月27日(土)	午後1時	助音講	じよんこう
10月4日(土)	午後1時	10月15日の報恩講速夜に助音として お勧めするための正信偈他稿古	
10月14日(火)	午後1時	報 恩 講	ほうおんこう
10月15日(水)	午後1時	法話	第4組 正願寺 三保合 順師
10月16日(木)	午前10時	速夜	午後1時 西岸寺 松林 了師
10月16日(木)	午前10時	結願農耕	午後1時 鈴木 聡師
10月16日(木)	午後1時	結願日中	
10月16日(木)	午後1時	法話	第15組 明水寺
10月14日(火)	午後3時30分	第4回みどりコンサート	報恩講終了後 坊さんバンド G・ぶんだりーか
10月14日(火)	午後3時30分	第1回赤羽御坊俳句会	はいくかい
11月21日(金)	午前10時	※詳細は2ページに記載	
12月27日(日)	午後7時	装束作法研鑽会	しょうぞくさほうけんけんかい
12月27日(日)	午後7時	講 師	第8組 宿禰寺 織田 顯慶師
12月27日(日)	午後7時	講 師	第8組 宿禰寺 織田 顯慶師
12月27日(日)	午後7時	講 師	第8組 宿禰寺 織田 顯慶師

平成20年4月に発足し第三期に至った赤羽地域教化センターは、14名の新スタッフを迎え総勢32名でスタートした。去る7月28日、教化活動の一層の充実・四つの部の連携強化・スタッフの意欲の疎通を図る一方で、別院が現在抱えている諸問題を話し合う事を目的として、スタッフ研修会が開催された。

門徒のお寺離れ・お寺の門徒離れ、即ち、仏教・真宗の法義や寺院の相続に驕りが見られる今日では、葬儀の簡素化や法事の省略傾向が顕著になってきていることから、待ったなしで直面する現状の確認と打開策について、活発な意見の交換が行われた。



教化活動の充実を スタッフ研修会を開催

みるきくあそぶ！ほとけの子 夏の子どもの集い



岡崎教区連盟 岡崎児童教化連盟
岡崎教区児童教化連盟が主催し、今年で38回目の「児童夏のつどい」は、8月18、20日の三日間三河別院・岡崎教務所において開催された。今年も「みるきくあそぶ！ほとけの子」をテーマに、同朋会館指導・栗栖寂人師を講師に招きお話しいただいた。朝夕のお勤めや座談会、オリエンテーションやキャンプファイヤー等々、時には真剣に、時には思いっきり楽しみながらお寺での生活をおくり、

子ども達とスタッフがともに考え、ともに楽しむ有意義な三日間となった。このつどいを縁に友だちになった相手と、来年この会での再会を約し、握手して別れを惜しむ姿が見受けられた。

子ども達とスタッフがともに考え、ともに楽しむ有意義な三日間となった。このつどいを縁に友だちになった相手と、来年この会での再会を約し、握手して別れを惜しむ姿が見受けられた。

子ども絵画展

第7回子ども絵画展には多数の作品を応募いただきました。審査の結果、次の方々を金賞に選ばれ、三浦輪番より賞状に記念品を添えて頭戴されました。

金賞受賞者(順不同)	吉崎みなみ
一年生	池田 智絵
二年生	清水 彩華
三年生	倉内 大輝
四年生	杉浦 帆夏
五年生	渡辺 篤弥
六年生	樹神社 一郎

受賞した皆さん

樹神社一郎君の作品

第二回赤羽御坊俳句会

次により御坊俳句会を開催します。奮っての参加をお待ちしています。

一、日時 平成26年11月21日(金) 午前10時受付

一、場所 赤羽別院

一、投句 西尾市一色町赤羽上郷中14

一、選評 一人5句まで

一、講評 齊藤 節富先生

一、会費 三〇〇円

一、昼食 各自用意下さい

一、顕彰 上位15名に記念品を贈り

赤羽御坊新聞第41号に掲載

石川台嶺師をしのぶ 殉教記念法要を厳修



梅雨入り間もない6月5日、本年も本山鍵役・信悟院殿ご参修のもと、殉教記念法要が厳修された。この法要は、大浜騒動の中心人物・石川台嶺が処刑された、旧西尾城内半屋跡(現・西尾市葵町)に一殉教記念碑が建てられた事を記念し毎年行われている。第一回の法要が大正14年6月6日に西尾説教場で厳修され、以降、毎年この時期に行われ、近年、赤羽別院に会所が移されている。当日は、石川台嶺ゆかり

の第16組・蓮泉寺(安城市小川町)に於て、午前10時30分より近隣の門徒参拝のもと「護法有志」前で行った。この法要は、大浜騒動の中心人物・石川台嶺が処刑された、旧西尾城内半屋跡(現・西尾市葵町)に一殉教記念碑が建てられた事を記念し毎年行われている。第一回の法要が大正14年6月6日に西尾説教場で厳修され、以降、毎年この時期に行われ、近年、赤羽別院に会所が移されている。当日は、石川台嶺ゆかり

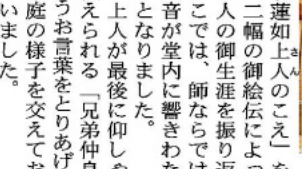
楠 理見師の法話 夏の御文を拝聴



「夏の御文」とは、本願寺八代目留守職の蓮如上人が明応七(一四九八)年に、御歳八十四歳の夏の季節にお作りになった「四通の御文」をいいます。これらの御文は、朝夕の勤行等には拝読され、七月十五日に「夏の御文法要」が執行され、この御文が拝読されています。

「夏の御文」とは、本願寺八代目留守職の蓮如上人が明応七(一四九八)年に、御歳八十四歳の夏の季節にお作りになった「四通の御文」をいいます。これらの御文は、朝夕の勤行等には拝読され、七月十五日に「夏の御文法要」が執行され、この御文が拝読されています。

小谷香示師の 暁天講座



去る8月25・26日の両日、赤羽別院では暁天講座がつとめられました。暁天講座とは、静かで清涼な空気のなかで法話を聴聞し、仏のお導きをいただく夏の恒例行事です。本年は両日とも曇り空で蒸し蒸しする早朝でしたが、多くの方々が見物に別院を訪れました。

初日の講師・第13組明榮寺住職小谷香示師は、「ひとつのことを聞く」という講題のもと「往相回向・還相回向」についてのお話をいただきました。師が日々感じている身近な出来事を取りあげ、独自の軽妙なジョークや、聴聞者への名指し質問を交えてやさしくお話しされました。二日目の第11組本澄寺住職・柳野明仁師は、「御絵伝が語りだす蓮如上人のこえ」を講題に、二幅の御絵伝によって蓮如上人の御生涯を振り返られ、ここでは、師ならではの琵琶の音が堂内に響きわたるところとなりました。また、上人が最後に仰しかったと伝えられる「兄弟仲良く」というお言葉をとりあげ、自らのお言葉と交えてお話しされました。

特集! 各組が取組んだ 真夏の勉強会

猛暑とも極暑ともいわれた今年の夏でしたが、各組が取り組んだ真宗講座をはじめ各種の勉強会は、いずれも大勢の聴聞者が集う盛況でした。この盛りあがり感が危機感のみられる真宗の今後の復活につながることを期待したい。

真城義磨師 同朋教室他

第8組 同朋教室他 第8組

第8組では、朝夕の風義磨師が招かれた。師はに多少の涼しさを感じる。8月23日青壮年の集い。24日に同朋の集いが宿縁寺において開催された。講師には、4年続きて今治市・善照寺住職真城師が。



師は、益々進む高齢化社会における限界集落や生涯独身の孤死問題、また、少子化により子供に対する過度の期待がもたらす、親子の断絶等、今日の世相に即した社会問題を、豊富な知識と表現で解りやすく話された。満堂の聴聞者も一様に納得の表情であった。

釋徹宗・日野賢之師 夏期講習会 第9組

第9組の夏期講習会は、8月22・23の両日、講師に釋徹宗師並びに日野賢之師を迎えて開催され、大勢の聴聞者が集った。初日の釋師は、落語等の芸能の源流は仏教にあり、私たちの生活は意識しなくてはならない話として、話の要旨は次号掲載予定。



日野賢之師

二日目は、日野師が「私たちが流されやすい迷信」について、蓮如上人の御文の一片目第九通「優婆夷」を引いて、念仏・異義・異安心など普段の生活の中での矛盾・葛藤を、真宗のお念仏に出会う度、度直して見ましようとお示し下さった。

八ヶ寺で暁天講座 第11組

33回目を迎えた第11組暁天講座は、八ヶ寺を会場に8月17日から連続8日間にわたって開催されました。朝夕のおつとめとして、真宗門徒に受け継がれてきた「みんなのうた・正信偈」を「念仏・信心・浄土」の三つのキーワードを手掛かりにして学ぶ講座です。



小谷香示師

八人の講師がそれぞれ選んだキーワードに添った講話により進められました。「正信偈」に秘められたものは、阿弥陀仏の願いである「念仏」を通して私たちの「信心」のあり方を明確にし、そこに「浄土」が開かれる縁を戴くことです。正信偈は「子々孫々に伝えていかなければならない教え」であることを学んだ有り難い縁となりました。

佐野明弘師

佐野明弘師をお迎えしての講座は今回で三回目。梅雨の晴れ間の7月12日、市子町・願海寺のお堂は聴聞に訪れた熱心な門徒で満堂となった。「核の時代を生きて」と題した講話では、資本主義・市場経済が生み出した原発は、私たちの「業」になりたいたいという欲求と、日常の無自覚が支え、世の中を「末法の時代」と捉えられた。



中村薫師

猛暑日の7月24・25日の両日、長寿寺・良宣寺で開催された第13組夏期講習会には多くの聴聞者が集った。同朋大学特任教授・中村薫師の「金子みず」とお念仏」と題した講話では、6年間で512首にも及ぶ詩には念仏の教えが刻まれており、優れた感性が伺えるが、その生涯は波乱に満ち、26歳の若さで自死を選んだことなどを切々と語られた。



門脇健師 第14組

第14組・壮年対象夏期真宗講座は、去る7月11日に本講寺において開催され、一六〇名を超える人々が、昨年に続いてお招きされた大谷大学教授・門脇健師の講話を熱心に聴聞した。講話は「本願」という贈り物であるが、テレビ番組や童話「浦島太郎」など身近な話題に触れながら進められ、「普通の私たちは、老病・死を忘れた生き方をしたい」と話された。また、「私たちがいのちの琴線に触れた時に涙を流す」と、それはその人が普通に生きてきた普通の人生が素直に生きたことであると証して



門脇健師

浄照寺(豊田市)に移された 北ノ御所を訪ねる

東西分派以前の浄照寺第14組坊守会並びに第12で、現存する唯一・最古組・浄徳寺同朋の会併せの遺構である「北ノ御所」が41名をはじめ、各地から、終の移転先である高ら大勢の人々が拝観・参詣。浄照寺(豊田市・拝に訪れた。



徳川家康、本多正信、教如上人

院議会を開催

去る6月13日、平成26年度赤羽別院通常院議会は、全職員35名中32名(委任状出席を含む)が出席し開催された。責任役員2名の選任同意、平成25年度経常会計及び特別会計決算案並びに平成26年度面会計予算案等が上程された。議会は、厳しい財政状況から多数の質疑応答を経て、何れも原案どおり承認可決した。



おかげさまで創業113年 仏壇・墓石 西尾店 年中無休 西尾市徳次町下十五夜 38-1 0563-57-0763

碧南店 水曜定休 碧南市栄町 2-115 (栄町けんしん東) 0566-46-7610

最朝法話 9月28日(水) 第12組 同 10月13日(日) 第11組 同 10月28日(火) 第10組 同 11月13日(木) 第11組 同 11月28日(金) 第12組 同 12月13日(土) 第12組 同 12月28日(日) 第12組 同 1月13日(日) 第13組 同 1月28日(水) 第13組 同

小林良史さん 仏前結婚式 第14組寺



初夏の日差しが眩しい7月18日、第14組・安専寺本堂において、小林良史さん・辻千里さんの仏前結婚式が、厳粛のなかにも華やかに執り行われた。新婚の父・正三さんは熱心な開法者で、幼い千里さんを寺に連れて行き、成人をお寺で祝い、また、引越の際には三折御本尊を持たせたという。娘の結婚式は、「是非阿弥陀様の前で」と願う父親の願いは、千里さんと良史さんに通じ、仏前式後、良史さんは「仏前式はこれまで見たことがなかったが新鮮でよかった」、千里さんは「緊張しました」と、ホッとしました様子で話された。かつては、家庭のお仏壇の前で地域の人々が立合人となったアットホームな結婚式が、お寺での仏前・人前結婚式として、若い人たちの選択肢となることが望まれます。

での挙式が決まった。結婚式は、近所の方々も見守るなか、新郎新婦が本尊の前に着座し、お勤めや誓いの言葉、念珠の授与等が行われた。司婚を務めた安藤住職は「多くの方々の目に見えないご恩、はたらくに よって初めて自分がある。有ること難し「ありがとう」を忘れずに新しい家庭を築いてください」と、良史の言葉とされた。

木村幸平氏が感話 第14組寺

親鸞聖人の御命日の28日に、毎月、同朋の会でお朝事を行っている。門徒が集ってお朝事をするようになったのは、25年前で現住職の代になつてからである。現在本堂再建のため、仮本堂で10人前後の門徒が足を運び、正信偈を一緒にお勤めし、代表者一人が感話を行った後、住職のお話がある。今回取材した6月28日には、木村幸平氏が感話された。テーマは、5月15日に行われた岡崎教区の親鸞聖人七百五十回御遠忌法会への参拝についてであった。氏は、会場の雰囲気や法要・講演のこと等参拝

を抱きました。それからは、より深く親鸞聖人や蓮如上人の教えを聴いて、あきたいという思いに駆られて、あちこちの方々のお力添えをいただき、僧侶にさせていただきました。僧侶となつて何かが変わりましたか。私は、もともと欲深な人間ではありませんでした。とはありませんでした。しかし、教えに触れたり、人様の話を聴かせていただくことにより、少しだけ満足というこの大切さが解つたように思われます。源徳寺衆徒として話をすると、僧侶の浅い私の話を、目を輝かせ真剣に聴いて下さる方々に出遇うことがあり、こまごまの人生で味わつたことのない満足感・充実感が得られるようになりまし。

今年も開催! 布教大会 岡崎教区 教化



猛暑の最中の7月24日、第9組・良興寺では岡崎教区布教大会が開かれた。この会は、教区内の有志で組織する「岡崎教区教化団」が主催するもので、五十年余の歴史を誇り、お説教を一人でも多くの人に親しんでいただきたいという願いが込められて好感度抜群。他にも、自己経験の中から話題を引き出し、講話を勉強する場、即ち「登壇門」として貴重な法会となつている。今回は、20歳代の若手から80歳半ばの超ベテラン13名が、第8組宿禰寺住職・織田慶雄師が勤めた後、会所住職より挨拶とミニ講話を聞き、真夏の白昼イベントの幕を閉じた。

師を進行役に、一人当たり15分の持ち時間で進められた。20歳半ばの講話初体験の講話は、話の内容も所作も新鮮で好感度抜群。他にも、自己経験の中から話題を引き出し、講話に話されるなど、若年層の講話に充実感があつた。短時間ながら故に「仏教の真髄はこれだ」とばかりに、的確な表現と内容で聴聞者の心を捉えるベテラン講師、親子から子への講話リレー、唯一人参加の女性講師から腹話術師等々、普段とは趣を異にした話題の連続と、満堂の聴聞者には笑顔と満足感が溢れていた。

赤羽御坊新聞懇志 物品寄贈懇志

- ・ 西光寺様
 - ・ 鈴筆 10ダース・ノート 20冊
 - ・ 三矢 平市様
- 貴重なお懇志を ありがとうございます。

お寺の掲示板

信心が定まると、浄土に生まれさせていただけるのだ。死を待つ必要はない。第12組 篤信寺

人間模様 第14組

「我道一代 御意見無用」を座右の銘に、20年程前まで大きな組を構えていた渡世人が、大病を契機に、改めて己の人生を振り返るところとなった。九死に一生を得た額田郡幸田町在住 岡田 英雄師は、吉良町・源徳寺で念仏の教えに出遇うところとなり、僧侶の道を選び新たな人生を歩み始めた。



篤く語る岡田師

僧侶を志した理由は、ひたすら前を見て渡世人の道を歩いてきましたが、暴力団とは違いますし、そのような組織と盃を交わすのが嫌で、きつぱりと足を洗い、会社を起し正業に就きました。ところが、4年前に生死を彷徨う程の大病を患い、これを契機に己の人生を回顧していた矢先、ふとしたことが縁で吉良の仁吉の菩提寺である源徳寺へ足を運ぶようになりまし。

そこで、住職をはじめお寺の皆さんの温情に触れ、お寺や真宗の教えに感銘し、興味を抱きました。それからは、より深く親鸞聖人や蓮如上人の教えを聴いて、あきたいという思いに駆られて、あちこちの方々のお力添えをいただき、僧侶にさせていただきました。僧侶となつて何かが変わりましたか。私は、もともと欲深な人間ではありませんでした。とはありませんでした。しかし、教えに触れたり、人様の話を聴かせていただくことにより、少しだけ満足というこの大切さが解つたように思われます。源徳寺衆徒として話をすると、僧侶の浅い私の話を、目を輝かせ真剣に聴いて下さる方々に出遇うことがあり、こまごまの人生で味わつたことのない満足感・充実感が得られるようになりまし。

貴方の院号法名・俠徳院釋心について。この院号法名は、住職をはじめ源徳寺の皆さんが考えて下さったのですが、侠は仁侠の俠で私の勇気の強さから、徳は源徳寺の徳、承心は沢山の感謝の心を承るといふ願いを表わし、とて有難い法名を戴き感謝しています。今後の目標は、僧侶となつて、これまでの自分の生き様からすれば、思ひもよらない人生を歩み始めましたが、全力で突っ走つてきた私の心に豊かな潤いを与えて戴き、一つの事を様々な角度から見る事ができるゆとりが生まれました。この喜びに感謝し、真宗の教義や僧侶としての儀式作法等を研鑽し、異端僧の心意気源徳寺衆徒として、後進の育成にも心を注いで努めて参りたいと考えています。

第9回 御坊俳壇・川柳

- 俳句 (順不同)
- 金網の 住職輪袈裟 夏の講
 - 球開見の 残せし傷も 夏座敷
 - 前住の ほれし袈裟も お虫干し
 - その上は 僧兵守りし 蓮の寺
 - 曲がる度 別の風ある 鳥暁夏
 - 落ちる身の 弥陀に救はる 蓮散華
 - 老集ひ 仏具磨きの 盆の前
 - 用なきと 知りつ撒く 七夫の靴
 - 源平の 空飛び交う 網の里
 - 仏前へ 夫婦の誓 蓮の花
- 川柳 (順不同)
- 号泣の 議員涙 こぼさず
 - 羅針盤 なき人生が おもしろし
 - いばつても あんたの値うち 上らない 井上 啓子
- ※お知らせ! 次回の御坊俳壇・川柳は、11月21日(金)に「第1回赤羽御坊俳句会」を開催(開催要領は2ページに掲載)するため休会とします。第10回の締切りは1月31日です。

編 集 室

昨今叫ばれている「宗教離れ・真宗の危機」について考えてみました。今年も各組・寺院で各種勉強会や法会が開かれたが、手次寺院には参拝・聴聞に行く人が、それ以外には足が遠のいてしまふお寺で合わせざる顔はほほいて、その人数は年々減少する状況にある。赤羽別院崇教区内の寺院には、何ひとつ気兼ねすることなく足を運べるようでありたいものです。では、足が遠のいてしまふ原因はどこにあるのか? やはり、お寺が、開かれた開法の道場として本来の役割を果たしていないからではないでしょうか。人間関係が希薄になつてしまつた現実これこそが、人と人との関わりを最も大切にしてはいる真宗にとって、大変厳しい向い風になつてはいる。そのなかで、お寺の行事の告知不足をはしくとするお寺の努力不足が、人が集まりにくく状況を生み出していることも事実です。このような時代だからこそ、人と人との関わりを大切に、誰もが行きがかりに、何気なく立ち寄れるようなお寺本来の姿をとり戻さなければなりません。今、真宗の根源が揺らぎ始めているのかも知れません。